

2026年3月31日

## 離島小学校における地域教育・観光教育の持続可能性調査

大阪大学人文地理学教室有志

### ■1. はじめに

- ・近年の学校教育の動向

地域を学習資源として活用する教育実践+外部人材の導入による学習の充実

= 総合的な学習の時間を中心とした地域連携型の取り組み(地域の自然・文化・産業などを教材とする学習実践)⇔地域教育実践の多くは単発的な体験活動,行事的性格にとどまる場合も

- ・制度的背景:文部科学省(2009年度)児童自身による観光ガイド活動などのモデルケースを提示.しかし,長期間にわたり継続的に実施されている事例は限られている.

### ★研究上の問い

地域教育実践はどのような条件のもとで成立してきたのか・いかなる支えによって継続されてきたのか

### ★本研究の目的

長期間にわたり小学校の地域教育実践として展開されている観光ガイド活動に着目し,その成立および継続を支えてきた制度・背景との関係のあり方を具体的事例に即して検討する.

## 2. 先行研究

○地域教育・観光教育:地域学習の意義・学習効果(例:寺本 2021; 田村ほか 2020)

○地域連携・外部人材:授業改善・児童の学習意欲の向上(例:西村ほか 2013; 早坂 2018)

- ・先行研究は「教育実践の成果・効果の検討」「教育が地域や外部アクターにもたらした影響」

= 実践がどのような関係のもとで成立し,どのような支えによって継続されてきたのかという点は十分に扱われていない

- ・外部アクターがどのように長期間にわたり学校の地域教育に関与し,その関係がどのように維持されてきたのかを具体的に分析した研究は限られている

→ 本研究は「地域教育実践の成立と継続を支える関係のあり方」に焦点を当てる

## 3. 調査対象と研究方法

調査対象:「島っ子ガイド」(三重県鳥羽市立菅島小学校、総合的な学習の時間)

→児童が観光客を対象に島内を案内する活動,地域の自然環境,歴史,産業,住民の暮らしなどを学習内容として構成.

- ・児童は,事前学習や地域調査を通じて説明内容を準備し,当日は実際の観光客と対面してガイド.(20年近くに及び毎年度継続して実施)

研究方法：菅島小学校教員および活動に関与してきた元職員や地域住民,外部アクターへの聞き取り調査,活動の観察,学習計画や運営資料などの文書資料の分析.

→これらをもとに,活動の運営実態や関与主体の関係のあり方について検討.

#### 4. 分析と考察

図1は島っ子ガイド活動における金銭,情報,および責任の流れを整理したもの. 活動がどのような財政的な条件で運営されているのかを把握することを目的.

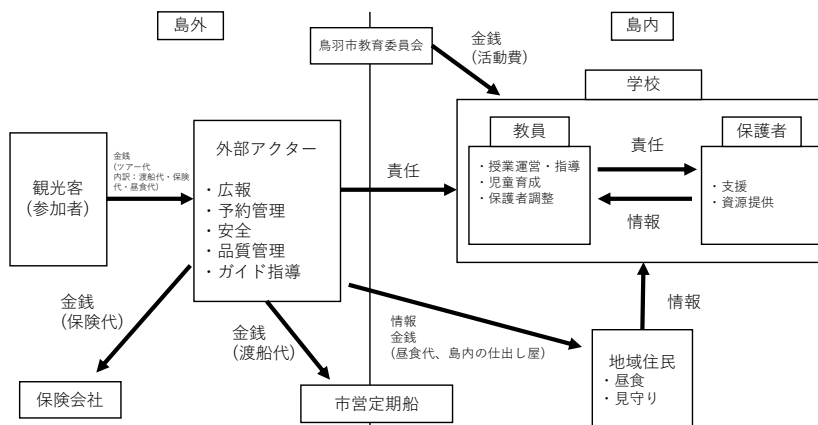


図1：金銭・情報・責任の流れを明示した構造図(筆者作成)

- ・運営には,学校予算,行政からの補助金,参加者負担,およびA社による支援が関与→,活動は学校外の資金のみによって成り立っているわけではなく,学校予算や行政補助金も一部で活用
- ・観光客が支払うツアー参加費は,一人あたり 3,000 円(2025 年度)：昼食代,渡船費,保険料など,島っ子ガイドの実施に必要な経費
- ・参加費の集金および管理はA社が担当,学校や児童が参加費を直接受け取る仕組みにはなっていない+活動を通じて学校や児童に金銭的な収益が分配されない
- A社においても島っ子ガイド活動から利益が生じる構造にはなっていない+A社の教育活動に関する業務については,契約書や業務委託契約といった文書による取り決め無し.

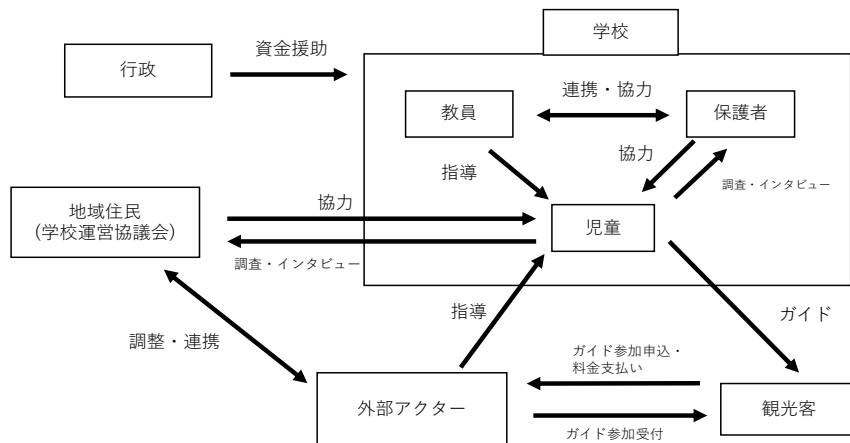


図2: 鳥っ子ガイドにおける各機関の関係(筆者作成)

・鳥っ子ガイドの運営や指導は学校内部のみで完結するものではない。

(学習内容の検討,活動当日の実務調整,安全管理,観光客への対応といった複数の局面において,地域住民や民間企業を含む学校制度外のアクターが関与.)

・外部アクターは,運営補助や安全管理にとどまらず,児童に対するガイド手法の助言や,学習内容の構成支援など,多面的な役割

→これらの関与は,学校側からの一方的な依頼によって成立したものではなく,外部アクター自身が地域内で築いてきた人的ネットワークや,長年にわたる関係性の蓄積を基盤として形成されてきたもの

・この関係は,明確な制度的枠組みや契約に基づいて位置づけられているわけではない

=制度化の不在は,柔軟な運営を可能にする条件であると同時に,担い手の交代や社会的条件の変化に左右されやすいという両義的な性格を有していると考えられる。

## 5. おわりに

・鳥っ子ガイドは,学校教育の一環として位置づけられた活動でありながら,その運営や継続が学校内部のみでは完結せず,地域住民や民間企業を含む学校制度外のアクターの関与によって支えられてきた教育実践

○経済援助：活動が学校予算や観光客の参加者負担などの資金によって運営されている一方で,学校や児童,さらには外部アクターに金銭的な収益が分配される構造にはなっていない

→鳥っ子ガイドは,実際に一般の観光客を相手にガイドを行う活動であるが,市場的な収益活動としてではなく,教育活動として位置づけられた枠組みの中で維持されてきた実践

○各機関の関係性：外部アクター学習内容の検討,活動当日の実務調整,安全管理,観光客への対応など,活動の成立に不可欠な役割を担ってきた

→契約や制度によって事前に設計されたものではなく,外部アクターや学校自身の地域内における人的ネットワークや,長年にわたって築かれてきた関係性の蓄積を基盤として形成

★島っ子ガイドの継続は,明確な制度的支援によって担保されてきたというよりも,関係者間の信頼関係や善意,教育的価値への共有理解によって支えられてきた

→制度化の不在は,活動の内容や運営を地域の実情に即して柔軟に調整することを可能にしてきた一方で,特定の担い手への依存や,人的関係の変化に大きく左右されやすい側面も

=島っ子ガイドは,地域教育実践の「成功例」として単純に評価されるものではなく,非制度的な関係性に依拠することで成立・継続してきた実践として位置づける

→地域教育実践の長期的な維持継続をどのように考えるべきかという課題を提起する

#### 【参考資料】

田村裕彦・早川裕弐・守田正志・小口千明・緒方啓介・小倉拓郎. 2020. 総合的な学習の時間を活用した地理・地形教育の実践 ―地域文化資源を用いた小規模公立小学校への地域学習から. 地形 41(4): 343-361.

寺本潔. 2021. 広義の観光資源を窓にした小中学校における地方地誌学習の提案. 日本地理学会要旨集.

西村千尋, 海津ゆりえ. 2013. 観光地域づくりを教材とした学校教育の可能性―三重県鳥羽市菅島の島っこガイドを事例に. 日本観光研究会全国大会学術論文集: 65-68.

早坂淳 2018. 「総合的な学習の時間」における外部人材活用の意義と課題―「協働」概念による課題の克服を目指して―. 長野大学紀要 39(3): 41-52.